

科目ナンバリング		G-LAS12 80030 LJ12 G-LAS12 80030 LJ43 G-LAS12 80030 LJ13			
授業科目名 <英訳>	ビジネスにおける情報学の実践 Practice on Informatics in Business			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 客員准教授 齊木 大 経営管理大学院 特定教授 藤田 哲雄 経営管理大学院 客員教授 前川 佳一
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	統計・情報・データ科学系	使用言語 日本語
旧群		単位数 1単位	時間数 15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・ 前期集中	曜時限	集中 8月28日(木)・29日(金)2-5限	配当学年	大学院生 対象学生 全学向
(情報学研究科、経営管理大学院の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)					
[授業の概要・目的]					
ITはあらゆる産業における当然の基盤となり、デジタルトランスフォーメーション(DX)がビジネスでの競争の鍵となりつつある。本講義では、当然のように活用されているITが、社会や産業の隅々にまで浸透してきた背景や経緯を概観し、本質的にITが社会課題の解決や企業経営にどのような意義を持つかを学ぶ。 次に、企業活動における人工知能（AI）等の最新技術やデータサイエンスの活用の実情を知り、経営戦略に基づくIT戦略の重要性を学ぶ。さらにIT活用及び戦略の様々な事例に触れたうえで、グループワークによってIT活用の戦略策定を疑似体験する。 一方、経営層がどのようにIT戦略とビジネスを見てガバナンスしているかの理解を深めるため、実際に大企業でITガバナンスを経験した経営層との対話を通じて学ぶ。 これらの体系的な学びを踏まえ、企業におけるDXについて参画企業3社の最先端の実例から理解の幅を広げ、最後にアイディアソンによりDXの発想力・実践力を習得する。 本科目は、「情報学ビジネス実践講座※」における総まとめにあたるものであり、企業経営におけるIT・DXについて実践的に学ぶ絶好の機会となる。 ※「情報学ビジネス実践講座」：京都大学と協力企業（ANA・ANAシステムズ、NTTデータグループ、DMG森精機、東京海上日動火災保険・東京海上日動システムズ、三井住友フィナンシャルグループ・日本総合研究所、日本電気）が、デジタル時代の社会で活躍するために、ITとそのビジネスへの活用を実践的に学べる場を提供することを目的に設立した産学共同講座。 詳細は講座ホームページ (https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/)参照					
[到達目標]					
・ビジネスや社会課題の解決におけるITの重要性を理解している。また、DXになぜ取り組むか、人工知能（AI）等の最新技術やデータサイエンスがいかにビジネスや社会に活用されるかを理解している ・IT戦略の実際について事例を通じて理解の幅を広げ、演習課題による疑似体験でIT戦略を策定するイメージを掴んでいる ・経営の現実的な視点からITとビジネスについて学びを深め、ITガバナンスの要諦を理解している ・DXについて企業の実例を踏まえて最先端の様相を理解し、さらにアイデアソンを通じて発想力・実践力を習得している					
[授業計画と内容]					
【第I部 IT戦略を学ぶ（日本総合研究所）】 1 ITと社会・ビジネス～IT戦略の理解まで～ ・ITが社会・ビジネスの隅々まで浸透していることを様々な事例を通じて説明する ・社会課題や企業の経営課題の解決におけるITの役割を解説し、業務との関係でITの意味を理解する					
----- ビジネスにおける情報学の実践(2)へ続く↓↓↓ -----					

ビジネスにおける情報学の実践(2)

- ・ デジタルトランスフォーメーション(DX)とは何か、なぜDXに各社が取り組んでいるのかを説明する
 - ・ 人工知能(AI)等の最新技術やデータサイエンスがいかにビジネスや社会に活用されているかを紹介する
 - ・ IT戦略をいかに策定するか、最新技術を活用したIT戦略をどのように企画するのかを説明する
- 2 IT戦略の事例と演習(グループワーク)
- ・ ゲスト講師を招いてIT戦略の事例を紹介し、理解の幅を広げる
 - ・ 演習課題を用いたグループワークにより、IT戦略の策定の概要を疑似体験する
- 3 経営とIT(含む企業経営層と学生との対話)
- ・ 経営戦略におけるIT戦略を企業組織において成就させるためのITガバナンスの勘所を説明する
 - ・ 企業経営層と学生との対話の時間を挟みITと社会・ビジネスの学びを深める

【第II部 最先端のDXに触れる(日本総合研究所・ANAシステムズ・DMG森精機)】

- 4 DXの現状①～金融業編～(事例紹介中心)
- ・ 金融業とITとの関係、金融におけるDXの捉え方と、活用事例を説明する
- 5 DXの現状②～航空業編～(デモンストレーション・事例紹介有)
- ・ 航空業におけるデジタル変革の歴史や、航空業とその枠を超えたデジタル変革の事例を説明する
- 6 DXの現状③～製造業編～(デモンストレーション・事例紹介有)
- ・ 製造業(工作機械業)におけるデジタル活用や、自動化、IoTによるつながるソリューションについて説明する

【第III部 アイディアソンでDXを実体験する(日本総合研究所・ANAシステムズ・DMG森精機)】

- 7 DXで新事業・サービスを創出する
- ・ グループごとに金融業・航空業・製造業(工作機械業)から1つを採り上げ、DXによる新事業・新サービスのアイデアを発想・検討し、発表する

タイトル横の括弧書きの企業名は「情報学ビジネス実践講座」の当該協力企業より以下の非常勤講師を予定

日本総合研究所：瀧崎 正弘 様、ANAシステムズ：廣澤 健樹 様・岐部 琴美 様、DMG森精機：ブルーメンシュテンゲル 健太郎 様

[履修要件]

受講人数を制限することがあります。その場合、情報学ビジネス実践講座プログラム(<https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/pib/>)登録者を優先します。

最新の事例を含め、ビジネスとITの実践的な情報を交えた講義となりますので、経営戦略やITの基本に関する知識について、スタート時点では必要ではないですが、授業中必要になる知識については、授業中の質疑で適宜補足します。

[成績評価の方法・観点]

講義への貢献度ならびに総合演習の評価に基づいて評価する。

[教科書]

必要な資料(テキスト、演習課題)を講義において配布する。

ビジネスにおける情報学の実践(3)

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて講義内で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

受講に際し経営および情報やITに関する特別の知識は必須ではないが、昨今の企業ニュースで取り上げられるIT活用の事例に関心を持っておくことを推奨する。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは特に設定しない。質疑はメールにて随時受け付ける。

齊木 大: saiki.dai.7y@kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]